

マリおよびリプタコ・グルマ地域に おける平和持続のための 平和維持学校支援



日本補正予算：2020年3月～2021年3月

予算：21万4,354米ドル

主なパートナー：特にリプタコ・グルマ地域の国際連合マリ多元統合安定化ミッション（MINUSMA）とG5サヘル諸国、国連女性機関（UN Women）

目的

このプロジェクトは軍、警察、文民要員を含め、マリ、および、マリ、ニジェール、ブルキナファソの国境地帯に広がるリプタコ・グルマ地域に展開される治安要員の能力を強化し、包括的なコミュニティ支援と治安の強化を図ることを目指しています。

プロジェクトを通じて、サヘル特にリプタコ・グルマ地域の安定と安全を目指したハイレベル・セミナーを開催します。セミナーでは、サヘルにおける紛争管理と平和に関する取り組みや最も効果的な成功例を有効に活用し、若者と女性のリーダーが治安維持対策に参画するための機会を設けます。

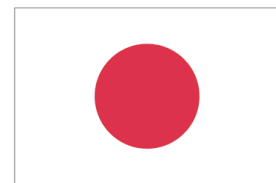
プロジェクトの成果

成果1：リプタコ・グルマ地域の治安関係者が、紛争管理と平和に関する取り組みの成功例やこれまでの教訓を特定し、今後の対策に有効活用すること

成果2：リプタコ・グルマ地域の若者と女性のリーダーが、治安維持対策に参画すること

SDGs への貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標16に貢献します。



**From
the People of Japan**

開発課題

サヘルに属するマリのリプタコ・グルマ地域は、およそ1,325キロメートルにわたってニジェール、ブルキナファソと国境を接しています。この地域では、2012年のマリ危機以降、テロ集団や犯罪組織が増加し、治安が悪化しています。この地域の脅威となっているのは、イスラム・マグレブ諸国のアルカイダ（AQIM）やボコ・ハラムをはじめとする過激派集団ですが、現地の集団が恐喝や越境犯罪行為、薬物密売に関与し、さらにこれらが暴力的過激主義や犯罪とも結びついていることで、状況はさらに深刻化しています。例えば、イラク・レバントのイスラム国（ISIL）は、この地域で活動する「サハラウィ・カティバ（Saharaoui Katiba）」による忠誠の誓いを正式に受け入れました。サハラウィ・カティバはニジェール、マリ、ブルキナファソで活動しています。ニジェール、マリ、ブルキナファソの国境地帯は首都圏から遠方で、統治が困難である由、ジハードの戦士がマリの国境を越え、リビアから流入した戦士やその他の犯罪集団とのネットワークを作ることが容易になっています。これにより、国境地帯だけでなく、3カ国の全土で情勢の不安定化がさらに進んでいます。